



▼手作りの鎧かぶとを身に着け、イベントを盛り上げます。



紙製の精巧な鎧かぶと 出雲尼子を興す会 (広瀬地区)

鎧かぶと作りは、平成元年に第一回戦国尼子フェスティバルに合わせて旧広瀬町で始まり、その後、出雲尼子を興す会が結成され、引き継がれました。会では単に技術を継承するだけでなく、常に進化させてきました。鎧は全体的に丸みを帯びています。鉄はかなづちで自在に変形できますが、紙ではそうはいきません。試行錯誤を繰り返しながら

広瀬で進化する技術

ます。紙製の鎧は、子どもでも着用できるほど軽い上に、かかる費用も大きく違いません。指導・製作を行うのが「出雲尼子を興す会」の鎧かぶと部会（瀧正夫部会長）。鎧かぶとづくりを通してまちの歴史を身近に感じてほしいと、これまでに延300両もの鎧かぶとの製作を行ってきました。一般的な鎧で、パーツ85片、開ける穴は3500を超えるなど、手間を惜しまず細部までこだわります。6カ月にもおよぶ製作期間を経て完成する鎧かぶとは、本物と見間違えるような見事な出来栄です。

来年には戦国尼子フェスティバルを控え、今年もまた、5月から鎧かぶと作りが始まります。同会の井上幸治さんは、「大変ですが、自分がデザインした鎧づくりは楽しいものです。フェスティバルでは、門下生が全国から駆けつけ、はなやかな一大戦国絵巻を魅せてくれますよ」と鎧かぶと作りが広がり、にぎわいを生んでいると話していました。

ら鉄板に負けない曲線を表現する技術を確立しました。こういった技術をいくつも蓄え、高度な鎧作りを可能にできました。評判は市外へ響き、山口や岡山、滋賀、鳥取など10をこえる団体が指導を行っています。



▲鎧かぶと教室で製作した作品。



紙でつくった鎧かぶと

安来の春の風物詩ひなめぐり。広瀬のまちを多種多様な鎧かぶとを身にまとった武者たちが威風堂々と闊歩（くわほ）します。戦国期の尼子武者が現われたようで、大勢の人がとり囲み、まちは一気にはなやぎます。

編集後記

安来市の人口と世帯数 H29.3.31現在

人口合計 / 39,723人
(男:19,043人 女:20,680人)
世帯数 / 14,239世帯

▼名所や名物が描かれたマンホールふたを図柄にした「マンホールカード」が密かに人気です。安来でも発行して一週間で約400人がカードを手に入れました。安来らしいデザインで評判も上々です。マンホールといえば、さぎの湯温泉に一箇所だけ他市のマンホールふたが設置してあります。探してみてください。(山)
▼取材先の布部で昭和まで創業した「たたら」があったことを聞きました。従事者で町は賑わい、それを支える商業者が立ち並び、たたらを中心に一大経済圏が形成されていたようです。これを聞き大手自動車メーカーのドラマを思い出しました。日本遺産を機に数々のドラマが掘り起こされるといいですね。(の)

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用